

第1回「(仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会 議事録

1 日時 令和5年12月18日(月)午後3:30～午後5:00

2 場所 ライトキューブ宇都宮 1階 小会議室101, 102

3 出席委員

学識経験者

森本 章倫 委員 中井 祐 委員 長田 哲平 委員

関係団体

市村 耕三 委員 近野 泰 委員 庄司 元康 委員 村上 龍也 委員

栗原 伸一 委員 増田 良二 委員 平手 義章 委員 高橋 功 委員

小関 裕之 委員 鈴木 孝弘 委員 稲葉 浩幸 氏(坂本 守弥 委員代理)

交通事業者

伊藤 滋 委員 荒井 勝 委員 中尾 正俊 委員

福島 崇文 氏(吉田 元 委員代理)

行政機関

横尾 元央 委員 笹沼 政行 委員 鈴木 克範 氏(大澤 賢吾 委員代理)

事務局

都市整備部 手塚次長

都市整備部 市街地整備課 石川課長 山崎課長補佐 安田係長 手塚総括
東主任技師 萩原主事

4 会議経過

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 「(仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会の設置について

① 設置要綱等について

事務局から設置要綱に基づき説明

② 委員の紹介

③ 会長の選任について

互選により、会長に森本委員、副会長に長田委員が選任

会 長

皆様と一緒にこれから議論をしていくJR宇都宮駅西口周辺地区ですが、JR宇都宮駅が明治18年に開業して以降、約140年に渡って宇都宮の顔になり続けている場所であります。

今年の8月には東側のLRTが開業し、市民の関心が東側の方に少し移っている状況かと思いますが、LRTの西側延伸も含めながら、宇都宮の顔にふさわしい西口のまちづくりについて皆様と議論していきたいと思っております。

学識経験者委員としましては、景観工学の日本の第一人者である中井委員や、宇都宮の都市計画・交通計画に見識が深い宇都宮大学の長田委

員を含め、我々も精一杯努めたいと思いますので、是非皆様と知恵を出し合いながら、少しでも世界に誇れる案をつくっていきたいと考えております。

限られた懇談会の時間ではありますが、皆様のご協力のもと進めてまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

(4) 会議の公開について

本会議は公開として決定

(5) 「(仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の策定について

事務局から資料1に基づき説明

会 長

ありがとうございました。

事務局から説明がありました通り、本日は第1回目の懇談会となりますので、現状と課題、そして将来像やコンセプトといった非常に大きな話になっております。是非皆様より忌憚のないご意見をいただきまして、将来像や取組方針の方向性を共有しながら進めていきたいと思います。

それでは、ご質問やご意見がございましたらお願ひいたします。

中尾委員

6ページの土地利用構想図の中で、黄色の「交通・おもてなしゾーン」については、本市への来訪者を迎える玄関口にふさわしい空間づくりであったり、交通結節点としての機能を強化していく重要なエリアだと認識しております。再整備にあたっては、LRTの構造を踏まえた検討や、高齢化社会を見据えたバリアフリーの対応など、避けて通れない課題が数々あるところだと思います。

交通事業者の立場としましては、交通結節点の機能を考える上で、「歩かせない」「濡らさない」「待たせない」という3つの視点を是非取り入れていただきたいと思います。

1つ目の「歩かせない」については、できるだけ近場で乗り換えることができるという意味であります。2つ目の「濡らさない」は、乗り換えの際に、旅行客などが両手に荷物を持っていても傘を差さずに済むよう、歩行者動線に天井などを設置するという意味であります。そして3つ目の「待たさない」は、乗り換えの際になるべく待たさないという意味であります。

この3つの視点を持った議論が重要だと考えておりますが、LRTの地上・高架の選定を含め、これらをいつまでに決めるのか、今後の見通しを教えてくださいませんか。

事務局

LRT構造につきましては、乗継利便性や、駅周辺、駅前広場の交通処理、周辺まちづくりの自由度の確保などの視点から、令和2年度に高架として選定し、公表したところであります。高架構造を基本としまして、今回お示しした将来像の実現に向けた取組方針や空間の考え方につきましても、LRTと十分整合を図って進めていくものと考えており、中尾委員

よりご意見としていただいた「歩かせない」「濡らさない」「待たせない」という視点につきましても、今後整備に向けた具体的な検討をしていく中で、景観の視点なども考慮しながら、歩行者動線や交通基盤施設のあり方について懇談会で議論させていただきたいと考えております。

伊藤委員

14 ページの交通の現状にある「デッキ上まで続くバスの待ち列」について、雨の日などは特に待ち列が長くなっていることは私共も認識しているところであります。一方で、交通の課題の中にはこのような混雑についての具体的な対策が記載されておりませんが、バスの待ち列への対応はハード整備によるものだけではないということによろしいでしょうか。

事務局

バスの待ち列について、特に朝のラッシュ時などは階段やデッキの上まで待ち列が続いているような状態であり、当然この状態が望ましいとは思っておりません。しかし、これを解消するためには、将来的な公共交通ネットワークとして、LRTやバスなどの公共交通機関がそれぞれどのような役割を持つのかを整理する必要があり、単にバス待ち空間を広くすれば解決するという話ではないと認識しております。

そのため、各公共交通機関の役割などを整理した上で、将来的な需要の検討を進めながら、ハード整備の対応についても今後検討していきたいと考えております。

伊藤委員

空間を広げれば良いという短絡的な考えではなく、多様な視点から考えていただけるとよろしいかと思えます。よろしく願いいたします。

高橋委員

全体的な話になりますが、西口周辺地区のまちづくりにおいて、今回示された約30年後の将来像や取組方針を目指していくためには、上位計画である「第6次宇都宮市総合計画」や「都心部まちづくりプラン」が約30年後に目指している姿と、今回示された将来像や取組方針に整合性があるのかを確認しないといけないと思えます。将来像コンセプトを考える要素として、現状と課題だけではなく、上位計画との整合性を判断できるような要素も入れてもらえると、将来像や取組方針が目指すものがよりはっきりとするのではないかと思います。

事務局

8 ページの位置づけに記載しているような上位計画の考え方を踏まえ、都心部の中での西口のあり方、またはもっと広い意味で市域全体の中での西口のあり方などを検討していきながら、どのような流れで上位計画と本計画の考え方が結びついているのかはしっかりと整理していきたいと思えます。

庄司委員

今年の春に、北海道日本ハムファイターズのエスコンフィールドという新しい球場ができました。私共が命名権を取得いたしまして、最近ではファイターズ、DeNAと共同出資して「株式会社エスコンスポーツ&エンターテイメント」という会社を立ち上げ、スポーツを中心としたまちづくりにも参加していこうと展開しているところであります。

宇都宮市においては、3年前に三井不動産様より旧ロビンソン百貨店（現トナリエ）の土地を取得いたしました。今後、LRTの西側延伸と西口の再整備が宇都宮の駅前をさらにシンボリックなまちとして発展させていくことは間違いないと思いますし、民間についても、10年後15年後にただ建物を建て替えれば良いというものではないことも理解しております。

資料の中にモビリティの話が載っておりましたが、私共としましては、インフラの整備や再生可能エネルギーを初めとする脱炭素に向けたまちづくりなどを併せ持った再々開発に積極的に参加させていただきたいと考えております。

私共は中部電力グループであります。グループとしても、まちへのコミュニティサポートインフラに取り組んでおり、筑波では地域冷暖房の会社を取得するなど、エリアへのエネルギー供給などにも目を向けて開発をしております。

将来的には、駅前にあるべきインフラの整備やモビリティのあり方などを開発の大きなコンテンツとして取り込みながら、行政は行政で、民間は民間でとならないよう、官民一体となったまちづくりに参加させていただきたいと考えております。

会長

大変前向きなご発言をいただきましてありがとうございます。

冒頭に事務局から説明があったように、この空間づくりは約30年先、もっと言うのであれば50年、100年先に向けた整備を行う絶好のチャンスだと私も認識しております。各企業の方々がお持ちの土地と行政の土地を縛って考えるのではなく、お互いの空間を譲り合いながら、どうすれば西口の付加価値が一番上がるのかという議論を懇談会の場でできると非常に良いと思います。

庄司委員より今温かいお言葉をいただきましたので、官民で同じ方向を向いて検討していきたいなと思います。

栗原委員

私は西口の地元住民ですが、子供の頃より駅前や田川で遊んでおりました。宇都宮は歴史ある古いまちで、田川に跨って東西に広く開けた、純粹で素朴な豊かなまちでした。そして現在、西口の再整備の検討が始まり、いよいよ宇都宮の玄関口が変わることを実感しております。

以前、学生と西口のデッキでイベントをやらせていただいた際、学生に宇都宮ってどういうまちかを尋ねると、「宇都宮は都会ですよ、ポテンシ

「チャルはたくさんありますよ」と言うておりました。そのため、宇都宮の魅力を発信する力をつければ、まだまだ西口は良くなると感じております。

そして現在の西口のデッキは、イベントを行うスペースが限られているので、是非来訪者におもてなしができるようなイベント会場をつくっていただきたいと思います。

また、L R Tの西側延伸と併せて、地域内交通の検討も行っていただきたいです。

会長

地元の連合自治会の代表である栗原委員より温かい言葉と期待の言葉をいただきました。ありがとうございます。

市村委員

まちづくり協議会としては、現在、南側の駅前地区の再開発事業の検討を進めており、これまで西口の交通改善やデッキの必要性、また、貴重な地域資源である田川の活用などの話し合いをしてきました。

今回広い範囲での30年後の将来像を共有するというのは非常に良いことだと思いますが、再開発としてはもう少し早く動きたいと思っておりますので、10年後の駅前広場、交通の問題を一緒に議論させていただければありがたいと思っております。

特に休日の交通渋滞の調査や歩行者の安全確保、人と車の分離など、駅前周辺で商売をしている人や住んでいる人の実情を汲みながら、交通改善に繋げてもらいたいと思います。駅前には本市の玄関口であり、宇都宮ならではの駅前にはしなければならないと思っておりますので、今後とも速やかにこの会議を進行していただき、30年と言わず、早い時間で将来像を実現していただきたいと思います。

事務局

本日は第1回目の懇談会ということで約30年後の将来像からお話をさせていただいておりますが、本計画につきましては、約30年後の将来像を見据えながら、L R Tの導入を予定している2030年代前半（約10年後）に駅前広場をどのように整備していくかを議論する場であると考えております。

それに向けましては、市村委員よりご意見をいただいたように、地域資源を活かした宇都宮ならではの空間づくりや、歩行者動線のあり方などについて懇談会の中で議論をしながら、計画策定に向けて迅速に検討していきたいと考えております。

近野委員

健康・スポーツという切り口での意見となりますが、私は今年の2月に会社の場所が変わりまして、1日の歩数で大体3000歩ほどが加わりました。結果としては5kg減量でき、3000歩の不便さが逆に自分の健康のためには非常に効果がありました。こういった不便さも受け入れて、それを楽しく享受できるというところがあるなと感じているところであります。

このように、多少不便だけど、若い人やまだ歩けるといふ人たちは500m先から駅に向かって歩いたり、一駅歩いてみたりと、歩けば歩くほどポイントが加算されて買い物に使えるような仕組みづくりなどを行うことで、健康でみんなが誇れるまちにしたいと思っております。

ウェルビーイングという言葉の語源には、心と体の健康に加えて社会の健康という要素があり、そういう不便さみたいなものをまちの皆さんで楽しく共有できるような空間設計ができると良いと思います。それと同時に、先程中尾委員から「歩かせない」という話がありましたが、当然足の不自由な方や高齢者の方には、エリアの中の便利な移動手段を提供するなど、メリハリをつけて楽しく運動ができる空間というものを考えていきたいなと思います。

会長

国としても「ウォークブル」という楽しく歩ける空間をもっと増やしていきましょうという政策を出しており、中尾委員の「歩かせない」というご意見は、単なる乗り換えはできるだけ短い方が良いということだと思っておりますが、一方で楽しく歩ける空間は長く歩けるようにするなど、目的に応じて検討することが重要だと感じております。

村上委員

約10年後に向けて駅前広場を整備していくという話がありましたが、資料6ページにある、逆に10年前に策定した基本構想を見ると「活力創出」や「賑わい」、「おもてなし」という当時のキーワードが出ているかと思っております。ただ、今の社会変化はかなり激しいものがあり、東側ではLRT開業に伴って活気づいていると思っておりますし、その風景を見ていると宇都宮もだいぶ変わったなと実感しております。

また、西側の都心部においても、最近では飲食店が増えて活気づいており、非常に嬉しいところですが、逆に活力や賑わいが増えると、治安の問題だとか複合的な問題が出てくるかと思っております。

また、「おもてなし」という日本独特の文化は、今のオーバーツーリズムの問題を考えると昔の感覚とは変えていくべきなのかなという気がしております。

そう考えると、13ページに「自然災害に強くしなやかな環境形成」とありますが、自然災害だけではなく、社会変化にも強くしなやかに対応できるような環境形成というところで、地元住民や進出企業の方たちが西口の空間をどのように利用して、人中心の居心地の良い空間をつかっていくかについて、今後議論を深めさせていただければありがたいなと感じております。

また、デッキの活用などを含めて、東西自由通路から田川までの空間利用については是非前向きな検討ができれば良いなと考えております。

事務局

16 ページの取組方針の中で、緑色の滞留・歩行者軸については、駅か

ら田川までを繋ぐような公共的な空間を創出していきたいと考えておりますので、田川への繋がりを意識して検討を進めていきたいと考えております。

また、L R Tの導入を見据えた駅前広場の再整備につきましては、現在、交通基盤施設の規模・配置や自動車道線・歩行者動線の確保などの検討を進めているため、今後懇談会の中で整備イメージをお示しして、皆様と議論させていただきたいと思っております。

中井委員

私の経験としては、「地べた」に魅力のないまちで、魅力のあるまちはないと考えており、「地べた」が寂れているのに、デッキの上や商業施設の中だけ賑やかというまちは長続きしないと考えております。

そのため、「地べた」という一番公共性の高い空間について、管理が公共だから、民間だから、ということは一旦外して、宇都宮の顔として豊かな公共空間を作り出していく議論ができれば良いと思っております。

また、本日の資料では西口周辺の地図しか出てきていないのですが、J R宇都宮駅から東武宇都宮駅までの直径2 km圏内に中世から近代までの宇都宮の歴史的なエリアや公共的な施設が入ってくると思っております。その直径2 kmの中を、超高齢社会、自動運転の時代において、L R Tや徒歩で豊かに暮らせるかというイメージで議論をしていくことも必要なのではないかと感じました。

事務局

8 ページに記載している上位計画の「都心部まちづくりビジョン」では、まさにL R Tを西側に導入するにあたって、西側のまちの歴史や文化、ストーリーの繋がりなどを方針とした都心部エリアの計画となっております。

「都心部まちづくりビジョン」では、都心部の拠点として、桜通り十字周辺や二荒山神社周辺などを設定しており、その中の一つにJ R宇都宮駅西口周辺も位置づけられているところであります。その一つの拠点である西口周辺地区の整備について、今回ご議論いただきたいというのが駅西側のまちづくりの全体像となっております。

会長

西口周辺地区にエリアを絞って議論をしていると、その周辺の議論から外れる可能性もありますので、中井委員よりご指摘がありましたように、「都心部まちづくりビジョン」と本計画は親子関係になっているということを再認識しながら進めていただきたいと思います。

増田委員

錦地域は駅の北西部にあたる地域になりますが、錦地域の住民の関心は15 ページの「活力創出ゾーン」にありまして、このエリアを是非活力ある空間にさせていただきたいと考えております。

現在の駅前広場周辺は大体が一車線となっており、駐車場に入る車が

道路に飛び出していると渋滞して動かないことがあります。そのような状態では活力は出てこないと思うので、北地区に交通センターのような機能をつかってLRTやバスなどの結節点を上手く創出するなど、駅前の交通改善を是非検討していただきたいと思います。

事務局

「活力創出ゾーン」は主に民間の方々がお持ちの土地になりますが、土地利用をしていく上で、自動車動線・歩行者動線などは市としても一緒に検討していかなければならないと考えております。増田委員よりご意見をいただいた交通改善なども含め、民間の方々と協議させていただきたいと思います。

副会長

東側にLRTが開業して交通の動きが大きく変わってきておりますので、それを踏まえて西側の交通結節のあり方を懇談会で議論できたら良いなと思っております。

難しいのは、約30年後の将来像を見据えながら約10年後の駅前広場の検討を進めなければならないので、今後進んでいく自動運転やライドシェアなどの要素を考えながら議論ができれば良いなと思います。

会長

約10年後からその先の将来を考えますと、自動運転社会は間違いなくやってきますので、それに対応できるインフラ整備も含めて、議論をしていくことは必要だと思います。

笹沼委員

まちづくりにおいて安全・安心は重要な要素になると思います。14ページの社会状況の項目に「自然災害に強くしなやかな環境形成」という現状が挙げられておりますが、それに対応する課題や将来像のコンセプトが見当たらなかったのもう少し表現が工夫されていると良いと思います。

事務局

14ページの防災に関する内容について、現在想定しているのは、再開発事業での備蓄倉庫の設置など、建物の設えのようなものになります。都市の防災性を高めるという視点で他にどのようなことが本計画に盛り込めるかは引き続き検討させていただきたいと思います。

中尾委員

東口の賑わいはLRTが非常に大きな影響を与えているのではないかと一般論がありますが、ライトキューブやウツノミヤテラスなどの再開発がどれだけ人の求心力を持っているのか、その効果検証などを行っているのであれば参考にするべきだと思います。

西口で再開発をしても結局は人が来ないとならないよう、しっかりと議論をしてから出発して、西口が面白い、楽しいと市民が思えるようなまちづくりをしていけると良いと思います。

会長

大変重要なお指摘だと思います。

宇都宮は2000年の大店立地法によって、郊外に大型商業施設が多く建てられるようになり、郊外対都心部の戦いから郊外対郊外の戦いになりました。このような状況下の中で西側がより魅力的に光るためには、相当頑張らないといけないというのは事実だと思いますので、そういった認識を持って議論を進めていきたいと思っています。

中尾委員

先程、JR宇都宮駅から東武宇都宮駅までの直径2km圏内というお話がありましたが、その範囲にはバンバや東武宇都宮駅があります。そのようなまちなかでの再開発を含め、事業の採算性なども考慮しながら総合的に検討していく必要があると思います。

会長

皆さまから様々なご意見をいただきましたが、最後に私も2点意見をお伝えしたいと思います。

まず1点目は、15ページの空間の考え方についてであります。駅周辺のまちづくりを考えるにあたって、「駅まち空間」という新しい言葉を国土交通省が中心となって出しており、これは駅や駅前広場単体ではなく、その周辺を含めて一体的なまちづくりをしていくという意味合いがあります。

1990年代にTOD（公共交通指向型開発）という、車に頼らず公共交通機関の利用を前提に組み立てられた都市開発が海外で大きな潮流となり、半径600mほどのエリアを一体的に再整備するようなまちづくりが進められてきました。アジアでまちづくりを検討する際、このTODが一つの鍵となっております。宇都宮においても、委員の皆様と協力をして、そういった駅とまちが一体となったまちづくりの案を練り上げられるかどうか、という非常に大きな課題を今議論していると思いますし、これが成功すれば日本の中で相当なトップランナーになれることは間違いないと確信しております。

先程議論がありましたように、インフラの位置や敷地を限られた空間の中で議論してしまうと、到底一体的なまちづくりにはならないと思いますので、駅から田川までの動線なども含めながら、まずは皆様と大きく検討をしていきたいと思っています。これから、多少はドキッとする案が出てくるかもしれませんが、それを従来型のフレームの中に押し込めてしまっただけでは新しいものはできないので、そういったことも飲み込みながら、最終的には皆様にとってもメリットがある案をつくりたいと思っております。

2点目ですが、宇都宮市長がよく50年、100年先に誇れるまちと表現されており、冒頭私もお話しましたが、明治18年につくった駅前を再構築する大きなチャンスであることは間違いないと思いますし、これを逃すとまた暫くできないのではないかと危機感を持っております。

今年7月に日本で初めてG7サミットの都市大臣会合が開催され、「持続可能な都市の発展に向けた協働」というテーマで議論されたのですが、そのときのキーワードが3点出ております。

1つ目は「ネットゼロでレジリエンスな社会」であります。脱炭素社会を目指していくのは避けようがない事実であり、ここで最先端を取らない限りは、最先端のまちづくりとは言えないと考えております。

2つ目は「インクルーシブな都市」であります。これが非常に重要で、日本では特に弱い部分になりますが、日本語では「包摂性」と訳されており、誰ひとり見捨てることのないまちづくりを意味しております。障害を持った方だけではなく、老若男女がこのエリアを本当に楽しい空間だと思っていただけるようなまちづくりができれば、間違いなく空間の価値は出てくると考えております。

そして3つ目は「都市におけるデジタル化」であります。デジタルについては日進月歩であり、サイバー空間を上手く取り入れていくというのは、まちづくりの大きなキーワードになります。以上の3点を是非組み合わせ、西口のまちづくりを考えていただきたいと思います。

以上で議事は終了いたします。

(6) その他

事務局より、次回の懇談会については、今回の議論を踏まえ整備方針などについて意見を伺う旨を説明。

(7) 閉会